

VSTサポート

VSTプラグイン

PyramixはVSTプラグインをサポートします。

また、MassCoreオプションによりマルチチャンネルVSTプラグインに対応することができます。



VSTスキャナー(フリーウェア)

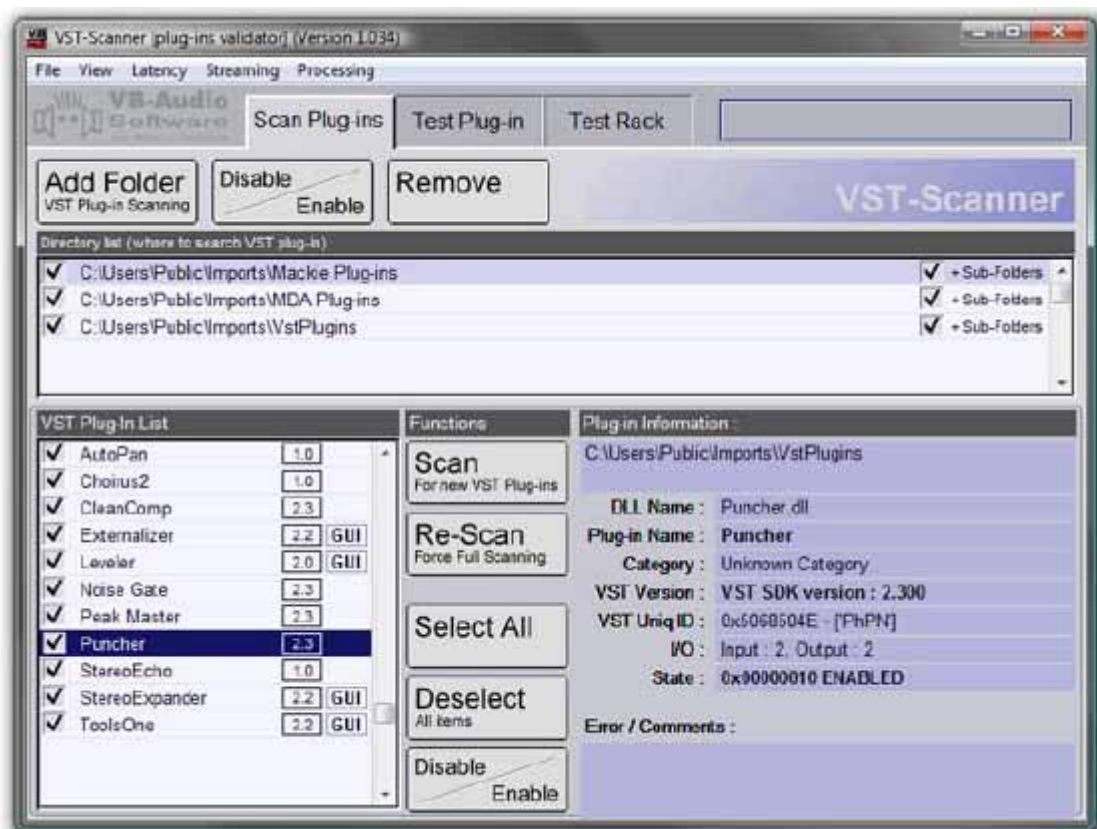
VSTプラグインを使用するには、まず初めに認証ツールであるVST Scannerを起動してプラグイン情報をPyramixへスキャンする必要があります。

スタート > すべてのプログラム > Merging Technologies > VS3 RunTime > VST Scanner

業界標準のVSTプログラムをお持ちの場合、VSTプラグが左側のウィンドウに出現します。チェックボックスにチェックを入れて、Pyramix上で使用したいものを選択してください。もし、左側のウィンドウに何も出現しない場合は、**Add Folder**で必要なVSTプラグインの【.dll】ファイルが格納されているフォルダを参照し、追加してみてください。**注意**)C : ドライブのルートを指定してスキャンすることは、決してしないでください!

最新バージョンおよび使用方法については、開発元 (VB Audio) のウェブサイトを参照してください:

http://pagesperso-orange.fr/vb-audio/us/resources/vst_scanner/vst_scanner.htm



VST - Scanner Window

Note: VSTプラグインはホストCPUによって処理されます。従って、VSTプラグインを多用する場合は、高速スペックのホストCPU搭載を推奨いたします。

VSTプラグインのリスト表示

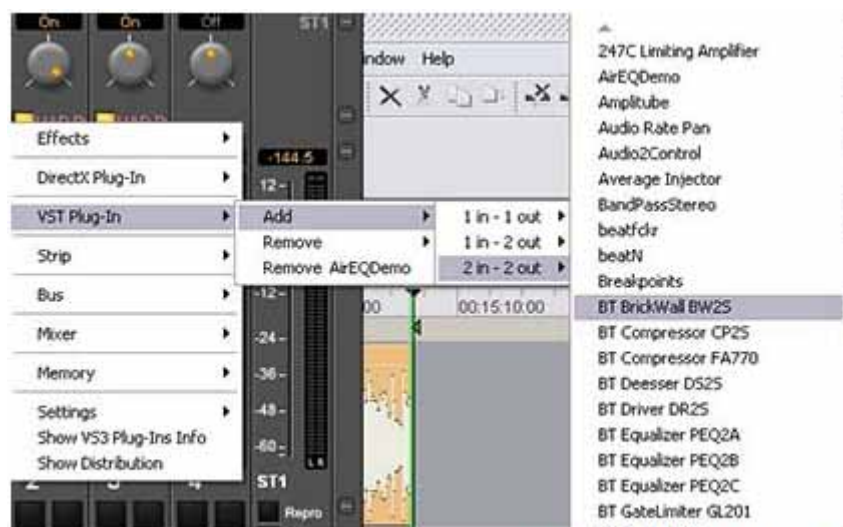
VSTプラグインのリスト表示は、**Settings > All Settings : Project > Mixer > Plug-ins Settings**ページで設定できます。

Company Name and I/O Configurationを選択した場合、スクリーンショットのようにまずは製造ブランド名でグループ分けされ、入出力構成別にアルファベット順でプラグインがリスト表示されます。



VST - Plug-Ins List by Manufacturer

I/O Configurationを選択した場合、（製造ブランドを問わず）入出力構成でグループ分けされ、アルファベット順でプラグインがリスト表示されます。



VST - Plug-Ins list by I/O configuration

VSTプラグインのオートメーション

VSTプラグインのオートメーションは、VS3プラグインおよびPyramixのミキサー・オートメーションとほとんど同じ方法で操作します。以下、若干の違いについて解説していきます。

オートメーション・モード

Read/Write, Auto-Write および Isolate のステータスは、プラグイン全体にのみ設定できます。

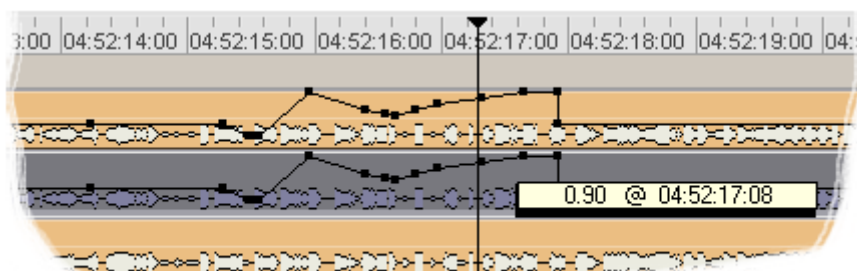


VST - Plug-In Automation Read Write buttons

オートメーション・モードは、上のスクリーンショットのようにVSTエフェクト画面の右上に表示される **R** および **W** ボタンを使用して設定します。

オートメーションのコントロール値

パラメーターをコントロールした時、その値はオートメーション・ポイントとしてタイムライン上に表示されます。VSTプラグインをトグルスイッチで操作した場合は、例外となります。



VST - Plug-In Automation node control value display

On/OffとBypass

VSTプラグインは、VS3プラグインのように On/Offボタンおよび Bypassボタンがあります。

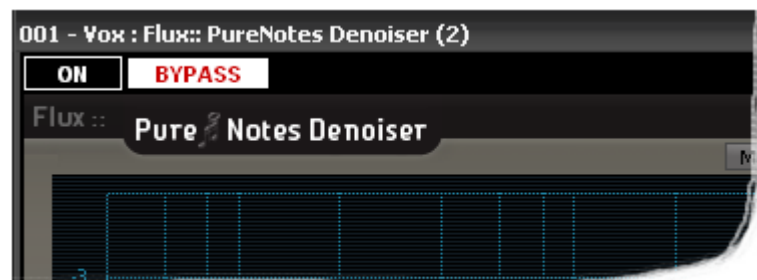


VST - Plug-In On/Off and Bypass

左側の On/Offボタンは、On状態で点灯します。エフェクトをOffにするとシグナルチェーンから外れます。右側の Bypassボタンは、エフェクトをバイパスしている時に点灯します。エフェクトをバイパスしていても、エフェクトを活用している時と同じディレイが起きている。

VSTユーザー・インターフェースのラベル

VSTユーザー・インターフェースの画面上で表示されるボタンは、現在ON/OFF(旧: BYPASS)とBYPASS(旧: Soft Bypass)に変更されています。



VST - Plug-In Caption Bar

キャプションバー

ウィンドウのキャプションバーは、使用しているストリップまたはバスの番号と関連ID, プラグイン名を示します。

Ghostプラグイン

VS3プラグインのように、VSTプラグインではGhostプラグイン機能が実行されます: これは本質的に、マシン上で使用できないVSTプラグインを含んだプロジェクトをロードした時、ミキサー上においてGhostプラグインとして出現することを意味します。このように行方不明になっているプラグインもプロジェクト情報として保存されます。

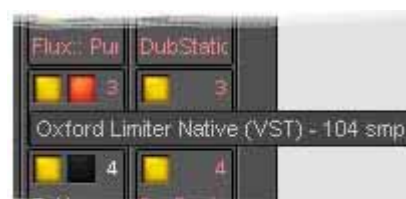
Ghostプラグインは、名前に取り消し線が入った状態で表示されます:



VST - Plug-In Ghost

プラグイン処理のディレイ表示

ミキサー上のVSTプラグイン名にマウスカーソルを合わせれば、いつでもツールチップでディレイの値を確認することができます:



VST - Plug-In Tooltip with delay value

Direct Xプラグイン

Pyramix V6において、DirectSound / DirectXプラグインは適当な“VST Wrapper”を介してのみ使用可能です。

重要！ 旧バージョンによって作成保存したDirectXプラグインが含まれているプロジェクトおよびテンプレートを開く場合、ミキサーには表示されませんが活用することは出来ません。
ただし、Pyramix V6 の“Saved As V5.1”機能で保存したデータをPyramix V5.1のシステムで開いた場合、このプラグインを起動することが可能です。